

(令和4年3月29日掲載)

1 日 時 令和4年3月9日(水)から令和4年3月18日(金)

2 場 所 書面開催

3 出席者(敬称略)

(委員) 篠原文雄 岩佐敏 貝瀬京子 木下拓郎 廣瀬久文

(事務局) 健康増進課長 総括課長補佐 健康企画担当

4 議事の概要

(1) 特定健診・特定保健指導の実施状況について

●被扶養者の受診率向上に向け、どのような環境整備が必要か。

委員：休日や祭日など受診しやすい健診日の設定や自己負担金の無料化、乳がん検診などの各種がん検診との同時実施、検査項目の追加(貧血、心電図、尿酸値、血清クレアチニン、眼底等)による魅力向上により、受診しやすい環境の整備が必要。

委員：分かりやすい特定健診のガイドブック等の作成・配布や予約制により待ち時間の混雑が少ないことをPRする等の受診勧奨が必要。

委員：ジェネリック医薬品の普及率を向上させるため、高齢者にはがきを送ることでジェネリック使用率が向上したとの報告がある。被扶養者の受診率の向上にも、はがきによる個別勧奨が必要ではないか。

委員：休日、祭日を利用しての健診が一度にできればよいが、それなりの施設や人手が必要となるため、難しいという課題がある。

また、受診した方に対しても、指摘された項目に関するだけでなく、受けることの大切さを啓発することも必要か。

生命保険会社の取り組み(健診受診により保険料が安くなる)や成績を上げている市町村の取り組みを参考にし、検診率の向上を目指してはどうか。

●受診率の維持・向上のため、今後どのような対策や啓発が必要か。

委員：受診会場においても感染防止対策を十分に行っている旨をPRし、受診者に安心感を与えることが必要。

委員：各種がん検診の同時受診等を行い、受診の必要性・有効性を訴えることが必要。

委員：啓発活動は、各個人に情報が届かなければ意味がない。啓発チラシを作成し、郵送する手段がよいのではないか。

委員：若者は、将来の病気予防に、高齢者は重症化予防に、もう一度健診の意義を啓発し、健康寿命の延伸につなげる。

健診を受けないことによるデメリットも指摘されているため、健診の受診率は一昨年と比べて改善してきているが、引き続き感染対策に努め、受診の大切を啓発する。

以上